市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第51集

市原市稲荷台遺跡O地点

２０２０

株　式　会　社　ラ　イ　フ
市　原　市　教　育　委　員　会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第51集

市原市稲荷台（いなりだい）遺跡O地点

２０２０

株式会社ライフ
市原市教育委員会

例　　言

1　本報告書は、千葉県市原市山田橋３丁目11番地11に所在する稲荷台遺跡Ｏ地点の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、宅地造成に伴い、株式会社ライフの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　発掘調査は、事業範囲1,070㎡のうち、162㎡を対象として実施した本調査である。これは、令和元年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した107㎡の確認調査の結果を受けたものである。

4　発掘調査・整理作業は、以下のとおりに行った。

発掘調査　令和元年11月11日～令和元年11月25日　　担当　小川浩一

整理作業　令和２年４月９日～令和２年11月６日　　担当　小川浩一

5　本書の執筆・編集は小川浩一が行った。

6　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。また、各図中には世界測地系座標を記した。

7　本遺跡の市原市埋蔵文化財調査センターの調査コードはセ575である。

8　本書に収録した出土遺物および記録類は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管している。

9　遺物写真（図版２）の縮尺は基本的に実測図に準じる。

本 文 目 次

第１章　はじめに……1
第２章　検出された遺構と遺物……7
第３章　まとめ……13

挿 図 目 次

第１図　稲荷台遺跡及び周辺遺跡 位置図……2
第２図　稲荷台遺跡 周辺地形図……4
第３図　稲荷台遺跡Ｌ及びＯ地点 全体図……5
第４図　全体図……6
第５図　遺構平面図（1）……9
第６図　遺構平面図（2）……10
第７図　遺構断面図……11
第８図　出土遺物実測図……12

表 目 次

第１表　稲荷台遺跡の調査状況……3
第２表　出土土器観察表……14
第３表　出土石器観察表……14
第４表　出土瓦観察表……14
第５表　出土金属器観察表……14

図 版 目 次

図版１　遺構写真
図版２　出土遺物写真

第１章　はじめに

１　調査に至る経緯

株式会社ライフ（以下、事業者）は、山田橋３丁目11番地11において宅地造成事業を計画し、令和元年７月26日付けで、文化財保護法第93条に基づく届出を提出した。

これを受けた市原市教育委員会（以下、市教委）は令和元年８月27日に試掘を実施した結果、平安時代の竪穴建物跡が確認されたとの所見を付けて、令和元年９月２日付けで千葉県教育委員会（以下、県教委）へ届出を進達した（市教文第1020号）。

このため、遺構分布を把握し埋蔵文化財への影響を判断することとなり、国庫補助事業として、令和元年９月10～27日にかけて確認調査が行われた（市内遺跡発掘調査事業）。

この結果を受けた県教委の指導により、本調査必要範囲は457㎡となり、市教委から事業者に伝えられた（令和元年10月２日付け、市教埋文第657号）。

その後、事業者と市教委が協議を重ねた結果、事業区域内の埋蔵文化財について、施工上、遺構の保護ができないと判断された162㎡について、事業者負担による記録保存の措置がとられることとなり、令和元年10月31日付けで発掘調査について契約を締結、市原市埋蔵文化財調査センターが同11月11～25日にかけて本調査を実施した。

２　遺跡の立地と歴史的環境

稲荷台遺跡Ｏ地点は、西に東京湾を望む市原台地にあり、白幡川水系によって開析された標高26ｍ程度の台地西側縁辺部に位置する。

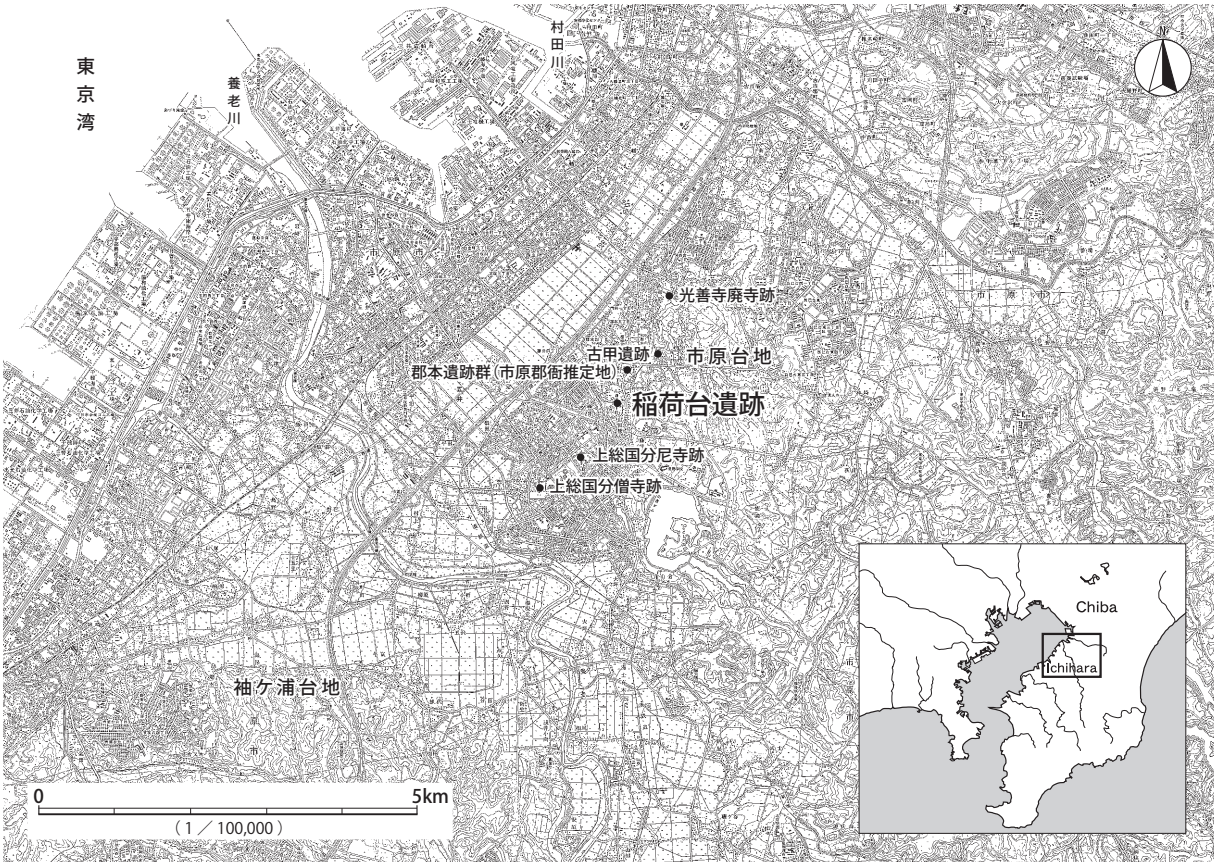
稲荷台遺跡がある市原台地に所在する奈良・平安期を中心とした遺跡としては、南西0.8kmに上総国分尼寺跡、同1.6kmには上総国分僧寺跡が存在する。また、北東0.5～1.6kmには、市原郡衙推定地を含む郡本遺跡群や、上総国府推定地のひとつである古甲遺跡、及び国府に近接する場所に存在した可能性がある光善寺廃寺跡等が所在する。

稲荷台遺跡は、これまで狭小な範囲を中心にいわば「虫食い」状に発掘調査が行われてきており、現在Ｑ地点にまで及ぶ。

その中心的な遺跡として考えられているのが、本調査地点の南方約250ｍに存在するＥ地区である。昭和53～55年に発掘調査が行われ、四面廂を持つ掘立柱建物跡を含む多数の掘立柱建物跡や、犠牲獣を伴う祭祀跡を検出すると共に、内面に「月」の文字が連筆された、貞観17（875）年の紀年銘を持つ墨書土器や、大量の緑釉陶器が出土しており、国府関連遺跡と考えられている。

また、南東130ｍに位置する、平成14年度に発掘調査が行われたＪ地点においては、国道297号線に並走する古代道跡の大規模な切り通しが検出されている。幅13.7～14.8ｍ、深さ約３ｍの溝状の掘り込みを持つ道路状遺構であり、３面以上の硬化面が確認された。中世期において、大規模な改変が行われている可能性が高いものの、国府関連遺構を結ぶ交通路として注目される。

西側に隣接するＬ地点は、稲荷神社を取り囲む森であったが、宅地造成や集合住宅の建設等に伴い、平成18～28年にかけて、発掘調査が行われた。弥生時代後期及び平安期の竪穴建物跡を主体としており、掘立柱建物跡を中心とするＥ地区とは、明らかに様相を異にする。Ｅ地区を維持管理する成



第1図　稲荷台遺跡及び周辺遺跡 位置図

員の集落跡とも考えられており、隣接する当調査地点においても国府関連遺構を維持管理した成員の集落のつながりを把握することが想定された。

3　調査の方法

確認調査で捉えられた各トレンチの状況から、遺構確認面付近まで駐車場造成に伴うと考えられる撹乱土が堆積していたことから、遺構検出面の深さである 30cm 程度の表土及び撹乱土除去をバックホーで行った。

遺構検出面は、調査区全域で立川ローム層中のソフトローム層からハードローム層へと漸移していく層であった。隣接するＬ地点の調査では、ソフトローム層が基本的な遺構確認面であったため、今回のＯ地点は、前述の状況からソフトローム上面まで削平されたと考えられる。

調査区の設定は、国土座標（世界測地系）に基づく 20m 四方の大グリッドと、それを 100 分割した 2m 四方の小グリッドを設定した。各図中に示されている北方位は、座標北である。

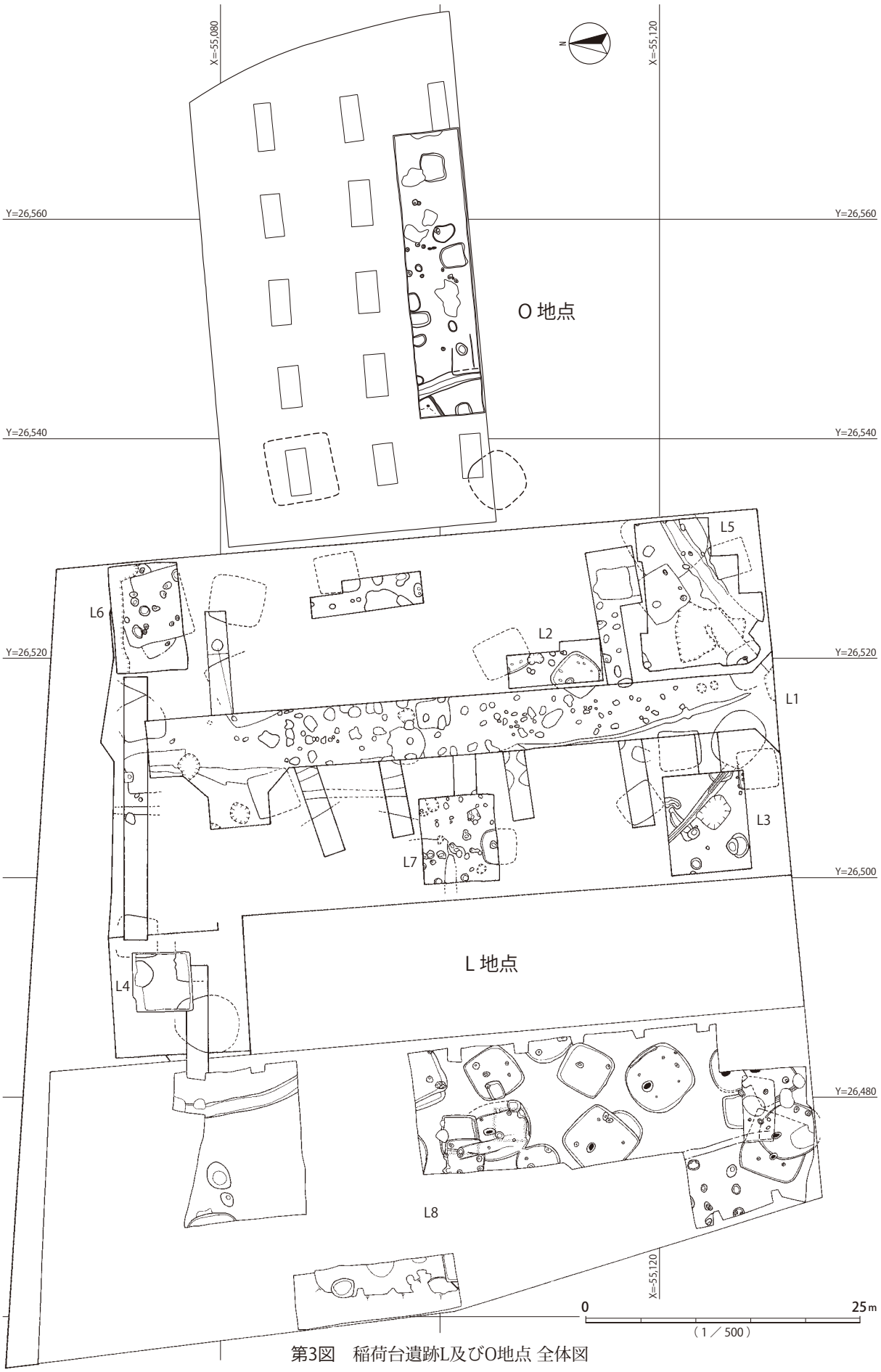
遺構の掘り下げは基本的に、平面を精査し形状を把握してから覆土を半截、またはセクションベルトを掘り残し、堆積状況を把握しながら行った。

平面図は1/40、断面図は1/20での実測を基本として行った。写真撮影は、デジタルカメラで行った。

第１表　稲荷台遺跡の調査状況

地点	調査年度	調査No.	調査種別	所在地	調査主体	調査担当	調査対象面積㎡	確認調査面積㎡	本調査面積㎡	調査開始	調査終了	遺構の概要	出土遺物	報告
A 地区	昭和 53～55	067A	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	1,640.00	－	1,640.00	1978/1	1980/8	円墳２基、竪穴住居跡 16 軒、掘立柱建物跡１棟、土坑等 32 基	墨書土器、土師器、須恵器、緑釉陶器	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
B 地区	昭和 53～55	067B	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	1,540.00	－	1,540.00	1978/1	1980/8	竪穴住居跡 13 軒、掘立柱建物跡２棟以上、溝２条、土坑等 53 基	土師器、青磁片	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
C 地区	昭和 53～55	067C	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	1,500.00	－	1,500.00	1978/1	1980/8	円墳１基、竪穴住居跡４軒、溝３条、土坑等 35 基	墨書土器	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
D 地区	昭和 53～55	067D	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	700.00	－	700.00	1978/1	1980/8	竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡群、溝１条、鳥居遺構１基、土坑等 28 基	記載なし	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
E 地区	昭和 53～55	067E	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	4,560.00	－	4,560.00	1978/1	1980/8	竪穴住居跡 45 軒、掘立柱建物跡 41 棟、集石遺構８基、土器埋納遺構５基、土器廃棄遺構３箇所、焼土堆積箇所４箇所	緑釉陶器、灰釉陶器、墨書土器、内黒暗文土器、金銅製帯金具、金銅製鍵？、錠前	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
E2 地区（平成 11 年度調査報告済地点）	平成 11	セ 290	本調査	山田橋３丁目４番地 11 ほか	市原市教育委員会	鶴岡英一・牧野光隆	719.00	－	719.00	1999/4/7	1999/5/11	縄文時代前後期土坑２基、弥生時代後期竪穴住居跡２軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 10 軒・掘立柱建物跡２棟、古墳時代後期円墳周溝１基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、布目瓦、墨書土器、鉄製品、馬歯	平成 11 年度市原市内遺跡発掘調査報告（稲荷台遺跡）
F 地区	昭和 53～55	067F	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	1,200.00	－	1,200.00	1978/1	1980/8	縄文時代中期炉跡状遺構１基、陥し穴４基、有天井土坑２基、木棺墓２基、地下式土坑２基、性格不明土坑 31 基	ロクロ土師器杯	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
G 地区	昭和 53～55	067G	本調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	－	－	－	1978/1	1980/8	道路状遺構（古代道）１条	記載なし	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
H 地区（H トレンチ）	昭和 53～55	067H	確認調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	－	－	－	1978/1	1980/8	道路状遺構（古代道）１条	記載なし	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
I 地区（I・J トレンチ）	昭和 53～55	067I・J	確認調査	山田橋 30 番地ほか	上総国分寺遺跡調査団	平野元三郎	－	－	－	1978/1	1980/8	記載なし	記載なし	財団法人市原市文化財センター調査報告書第 83 集
J 地点	平成 14	セ 364	本調査	藤井１丁目 187 番地、189 番地１	市原市教育委員会	牧野光隆	662.00	－	662.00	2002/8/29	2002/10/10	平安時代道路跡１条・溝２条・竪穴住居跡５軒・土坑１基、中世溝１条・土坑１基	平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦・鉄製品、中世陶磁器・カワラケ・獣骨	平成 14 年度市原市内遺跡発掘調査報告
K 地点	平成 17	セ 397	確認調査	藤井３丁目 88 番地	市原市教育委員会	櫻井敦史	499.60	49.00	－	2005/5/9	2005/5/13	古墳時代後期竪穴住居跡２軒・円墳１基、奈良・平安時代竪穴住居跡２軒	土師器、須恵器、支脚、鉄鏃	平成 17 年度市原市内遺跡発掘調査報告
L 地点	平成 18	セ 410	確認調査	山田橋３丁目 11 番 17・18	市原市教育委員会	近藤　敏	3,500.00	350.00	－	2006/9/13	2006/10/4	弥生時代竪穴住居跡４軒、古墳時代竪穴住居跡４軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 17 軒・掘立柱建物跡６棟・土壙墓１基	弥生土器、土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、暗文花文土器、短刀	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第４集（平成 18 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
M 地点	平成 19	セ 419	確認調査	藤井１丁目 185 番地１	市原市教育委員会	小川浩一	360.24	36.00	－	2007/6/4	2007/6/6	中世地下式坑１基	土師器、中近世陶器、近世銭貨	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第７集（平成 19 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L1 地点	平成 24	セ 505	本調査	山田橋３丁目 11 番地 18 ほか	市原市教育委員会	近藤　敏	337.00	－	337.00	2012/10/16	2012/11/5	弥生時代竪穴住居跡５軒、奈良・平安時代竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡５棟、土坑 11 基、ピット群１ヶ所、溝２条	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄釘、人歯、中世陶器、カワラケ、土製品	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 33 集
L2 地点	平成 25	セ 513	本調査	山田橋３丁目 11 番地 44	市原市教育委員会	小川浩一	43.00	－	43.00	2013/7/22	2013/8/5	弥生時代後期竪穴住居跡１軒、古墳時代前期竪穴住居跡１軒、中世土坑１基	弥生土器、土師器	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 30 集（平成 25 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
N 地点	平成 25	セ 514	確認調査・本調査	藤井１丁目 189 番地２の一部	市原市教育委員会	近藤　敏	249.40	20.00	20.00	2013/8/16	2013/8/27	道路遺構１条	土師器、須恵器、瓦、中世陶器、鉄製品、礫	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 30 集（平成 25 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L3 地点	平成 25	セ 517	本調査	山田橋３丁目 11 番地 35 の一部	市原市教育委員会	小川浩一	68.80	－	68.80	2013/10/21	2013/11/5	平安時代竪穴住居跡１軒・溝１条・土坑１基	土師器、須恵器、瓦	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 30 集（平成 25 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L4 地点	平成 25	セ 522	本調査	山田橋３丁目 11 番地 37 の一部	市原市教育委員会	近藤　敏	25.00	－	25.00	2014/1/14	2014/1/28	平安時代竪穴建物跡２棟、中世土坑２基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、カワラケ	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 33 集
L5 地点	平成 26	セ 524	本調査	山田橋３丁目 11 番地 45	市原市教育委員会	近藤　敏	137.00	－	137.00	2014/4/28	2014/5/22	弥生時代竪穴建物跡３棟、古墳時代竪穴建物跡１棟、奈良・平安時代竪穴建物跡２棟、溝１条	縄文土器、弥生土器、土師器、土錘、須恵器、瓦、鉄製品、鉄滓	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 34 集（平成 26 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L6 地点	平成 26	セ 526	本調査	山田橋３丁目 11 番地 41	市原市教育委員会	近藤　敏	62.30	－	62.30	2014/5/27	2014/6/16	弥生時代竪穴建物跡１棟、奈良・平安時代竪穴建物跡１棟、土坑３基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、鉄製品、石製品	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 34 集（平成 26 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L7 地点	平成 26	セ 531	本調査	山田橋３丁目 11 番地 36 の一部	市原市教育委員会	近藤　敏	59.62	－	59.62	2014/11/21	2014/12/12	弥生時代後期竪穴建物跡１棟、古墳時代前期竪穴建物跡１棟、奈良・平安時代竪穴建物跡１棟・掘立柱建物跡１棟、中世ピット群１基、土坑２基	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦、鉄製品	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 34 集（平成 26 年度市原市内遺跡発掘調査報告）
L8 地点	平成 27	セ 539	本調査	山田橋３丁目 11 番地 33	市原市教育委員会	近藤　敏	719.00	－	719.00	2015/12/1	2016/2/5	弥生時代竪穴建物跡９棟、古墳時代竪穴建物跡４棟・貝ブロック１基、平安時代竪穴建物跡８棟・溝１条、中世溝１条、近世溝１条、時期不詳土坑 10 基・竪穴建物跡１棟	縄文土器・石器、弥生土器・石器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器、灰釉陶器、中世陶磁器、土製品、鉄製品	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 38 集
O 地点	令和元	セ 574	確認調査	山田橋３丁目 11 番地 11	市原市教育委員会	小川浩一	1,070.00	107.00	－	2019/9/10	2019/9/27	弥生時代後期竪穴建物跡１棟、奈良・平安時代竪穴建物跡３棟、溝状遺構１条	弥生土器、奈良・平安時代土師器、須恵器、瓦	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 49 集（令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告）
O 地点	令和元	セ 575	本調査	山田橋３丁目 11 番地 11	市原市教育委員会	小川浩一	162.00	－	162.00	2019/11/11	2019/11/25	奈良・平安時代竪穴建物跡１棟、平安時代溝状遺構１条、中世方形土坑２基	奈良・平安時代土師器・瓦、平安時代灰釉陶器、中世カワラケ	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第 51 集
P 地点	令和元	セ 576	確認調査	山田橋２丁目４番地５他 11 筆	市原市教育委員会	中野喬介	1,592.90	160.00	－	2019/11/18	2019/12/19	奈良・平安時代竪穴建物跡７棟・土坑 15 基、平安時代竪穴建物跡２棟・溝状遺構１条、古代～中世地下式坑３基	奈良・平安時代土師器・須恵器・鉄製品・瓦、平安時代灰釉陶器	令和２年度市原市内遺跡発掘調査報告刊行予定
P 地点	令和元	セ 578	本調査	山田橋２丁目４番地５他 11 筆	市原市教育委員会	中野喬介・齊木　誠	418.40	－	418.40	2020/1/24	2020/3/27	古墳時代終末期土坑４基、奈良・平安時代柵列１列・土坑３基・性格不明遺構１基、平安時代竪穴建物跡４棟・掘立柱建物跡１棟、中世溝状遺構４条、時期不明土坑３基	縄文土器、古墳時代須恵器、奈良・平安時代土師器・須恵器・土製品・鉄製品・瓦、平安時代灰釉陶器	令和２年度刊行予定
Q 地点	令和元	セ 579	確認調査	山田橋３丁目８番地１・41	市原市教育委員会	小川浩一	619.34	61.90	－	2020/2/28	2020/3/12	縄文時代陥し穴１基、弥生時代後期竪穴建物跡４棟	縄文土器、弥生土器、奈良・平安時代土師器、須恵器、瓦、瓦塔、中世磁器	令和２年度市原市内遺跡発掘調査報告刊行予定
P 地点	令和２	セ 580	本調査	山田橋２丁目４番地５他 11 筆	市原市教育委員会	齊木　誠・中野喬介	418.40	－	418.40	2020/4/2	2020/5/29	縄文時代陥し穴２基、古墳時代終末期地下式坑２基、奈良・平安時代柵列３列、平安時代竪穴建物跡７棟・掘立柱建物跡５棟・土坑３基、中世溝状遺構２条、時期不明土坑 28 基	縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器・鉄製品・瓦、平安時代灰釉陶器	令和２年度刊行予定

第2図　稲荷台遺跡 周辺地形図



第3図　稲荷台遺跡L及びO地点 全体図

X=-55,080
N
K
K
2号
K
K
Y=26,560
Y=26,560
3号
K
4号
1号
Y=26,540
Y=26,540
X=-55,080
X=-55,100
0
5m
（1／200）

第4図　全体図

第２章　検出された遺構と遺物

１　竪穴建物跡

概要　調査によって検出された竪穴建物跡は、調査区北西端部に位置する１棟のみであるが、調査区全域にわたって、駐車場造成による削平及び撹乱が著しく、摩耗した土器の細粒片や焼土等が混在する堆積土が、ほぼ均等に存在したことから、撹乱前は、ある程度の遺構が存在していたものと考えられる。

１号遺構

位置　調査区の北西端部に位置する。

形態　東側を溝状遺構である４号遺構により切られ、西側の大半の部分が調査区外にあると考えられる。径４ｍ程度の方形を呈していたと考えられる。

構造　深さ0.4 ～ 0.5ｍ程度を測り、覆土は暗黒色土を主体とする。

遺構の周囲に深さ0.1m程度の壁溝が全周していたと考えられ、東側部分は、溝状遺構である４号遺構に切られている。新旧関係は、１号遺構の方が古いと考えられる。遺構内南東部には、深さ0.4m程度の主柱穴と考えられるピットが検出され、ピットから北西に向かって床面が硬化していた。カマドは、調査区外に存在すると考えられる。

出土遺物　覆土中より、土師器甕口縁部１が出土しているのみである。出土遺物が僅少であり、帰属時期の把握は困難であるが、奈良・平安期を中心としていると考えられる。

２　方形土坑

概要　方形土坑の可能性がある遺構は、調査区東端部付近及び中央東寄りにおいて２基検出されている。いずれも、遺構の下底面しか残存していなかった。竪穴建物跡の掘り方部分の可能性も考えられたが、東端部付近の２号遺構からは、中世前半期のカワラケが出土しており、同様の遺構の覆土及び形状を呈する中央東寄りの３号遺構も含めて、中世期まで下る可能性がある方形土坑とした。

２号遺構

位置　調査区の東端部付近に位置する。

形態・構造　平面形態は、隅がやや角張った不整な方形を呈し、規模は2.56 × 2.18mを測る。深度は0.2m程度を測り、覆土はロームブロックを含む暗黒褐色土を主体とする。遺構は北西部分において撹乱を受けている。底面が、ほぼ全面にわたって硬化していた。

出土遺物　遺物は、中世前半期の可能性が高いカワラケ小皿１が、覆土中より出土している。また、同じくカワラケの可能性がある高台付杯２も、覆土中から出土している。

鉄製品では、覆土中より板状鉄製品３が出土している。重量7.5gを測り、鎌の可能性も考えられる。

他には、又状石製品４が出土している。石材は溶結凝灰岩で、丁寧に研磨されており、一部、擦痕が観察される。

3 号遺構

位置　調査区の中央東寄りに位置する。

形態・構造　平面形態は、隅のやや丸まった不整な方形を呈し、規模は2.26×2.04mを測る。深度は0.1～0.15m程度を測り、覆土はロームブロックを少量含む暗黒褐色土を主体とする。遺物の出土はなかったが、2号遺構と覆土及び形状が類似しているため、中世期まで下る可能性がある方形土坑とした。

出土遺物　遺構の残存状況が極めて悪く、図示できる遺物の出土はなかった。

3　溝状遺構

概要　調査によって検出された溝状遺構は4号遺構の1条のみである。覆土内から、灰釉陶器瓶の胴部片が出土しており、平安期を中心とした帰属時期の可能性が考えられる。竪穴建物跡である1号遺構と重複するが、新旧関係は、溝状遺構である4号遺構の方が新しいと考えられる。

4 号遺構

位置　調査区の西側端部付近に位置する。

形態　調査区を南北に走る溝状遺構であり、やや西に傾きながら北方に伸びていくと考えられる。

構造　溝状遺構の幅は、1.2～1.4m程度を測り、深さは0.3m程度を測る。覆土は、ローム粒を微量に含む暗黒褐色土を主体とする。

覆土中及び下底面に硬化面は検出されず、道路状遺構ではないと考えられる。また、宝永火山灰は認められなかった。覆土中から灰釉陶器の瓶胴部片が出土しており、平安期を中心とした帰属時期の可能性が考えられる。官衙遺構を維持管理した成員の集落内を区画する溝状遺構であろうか。

出土遺物　遺物は、覆土中からロクロ土師器杯底部1や、灰釉陶器の瓶胴部下半～底部2が出土している。2は、外面、全面に施釉されている。

また、同じく覆土中から平瓦3が出土している。凹面には布目痕があり、凸面には縄タタキ目痕が観察される。他には、磨石4及び5が出土しているが、混入であろう。

4　遺構外出土遺物

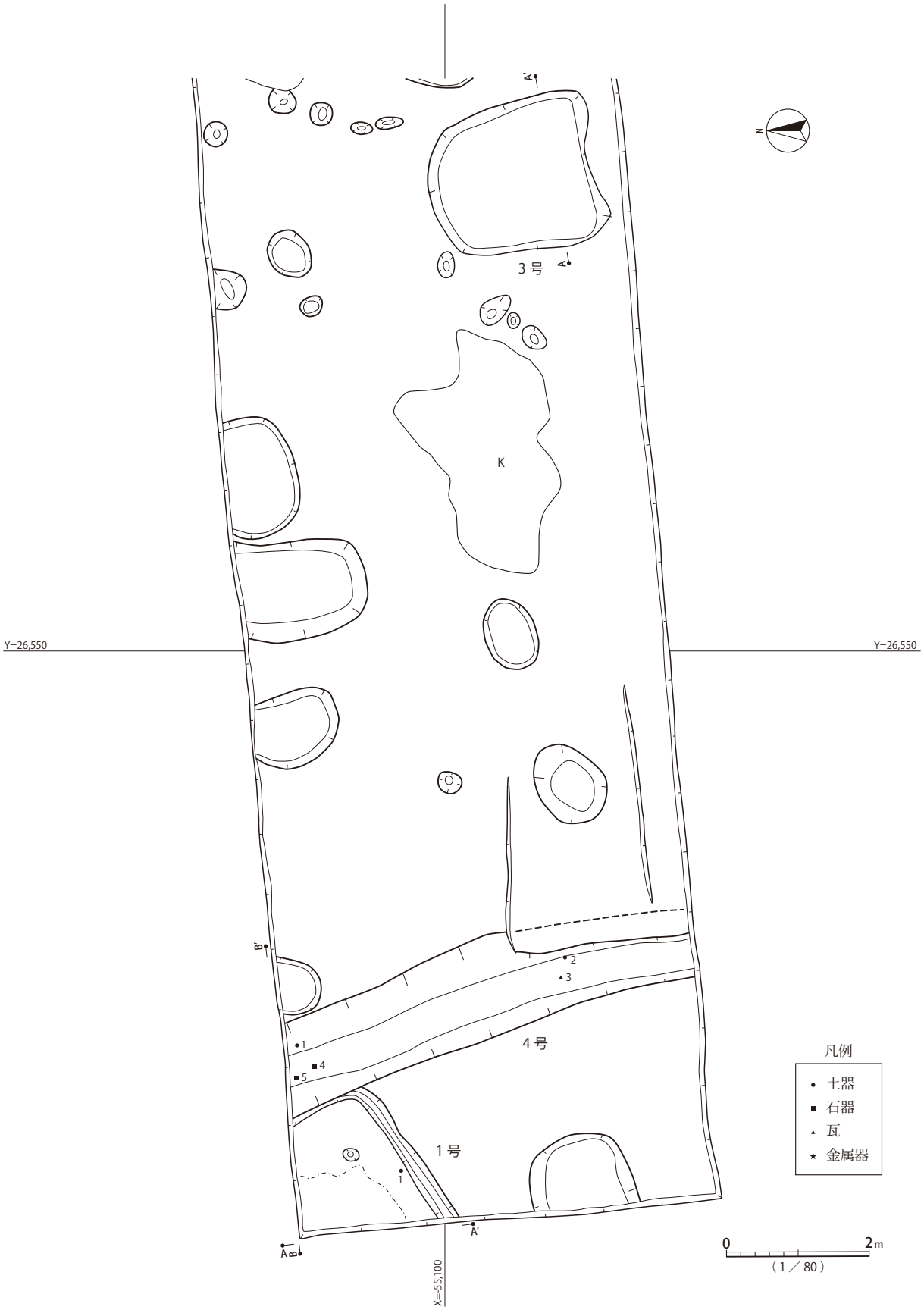
概要　遺構に帰属しない遺構外出土遺物として掲載したものは7点あり、土師器及び平瓦等が出土している。

南方300mにあるE地区に存在する官衙関連と考えられる、掘立柱建物跡群を維持管理した成員の集落であった可能性があるL地点の遺構が、当調査地点にも展開していた可能性が高いと考えられる。

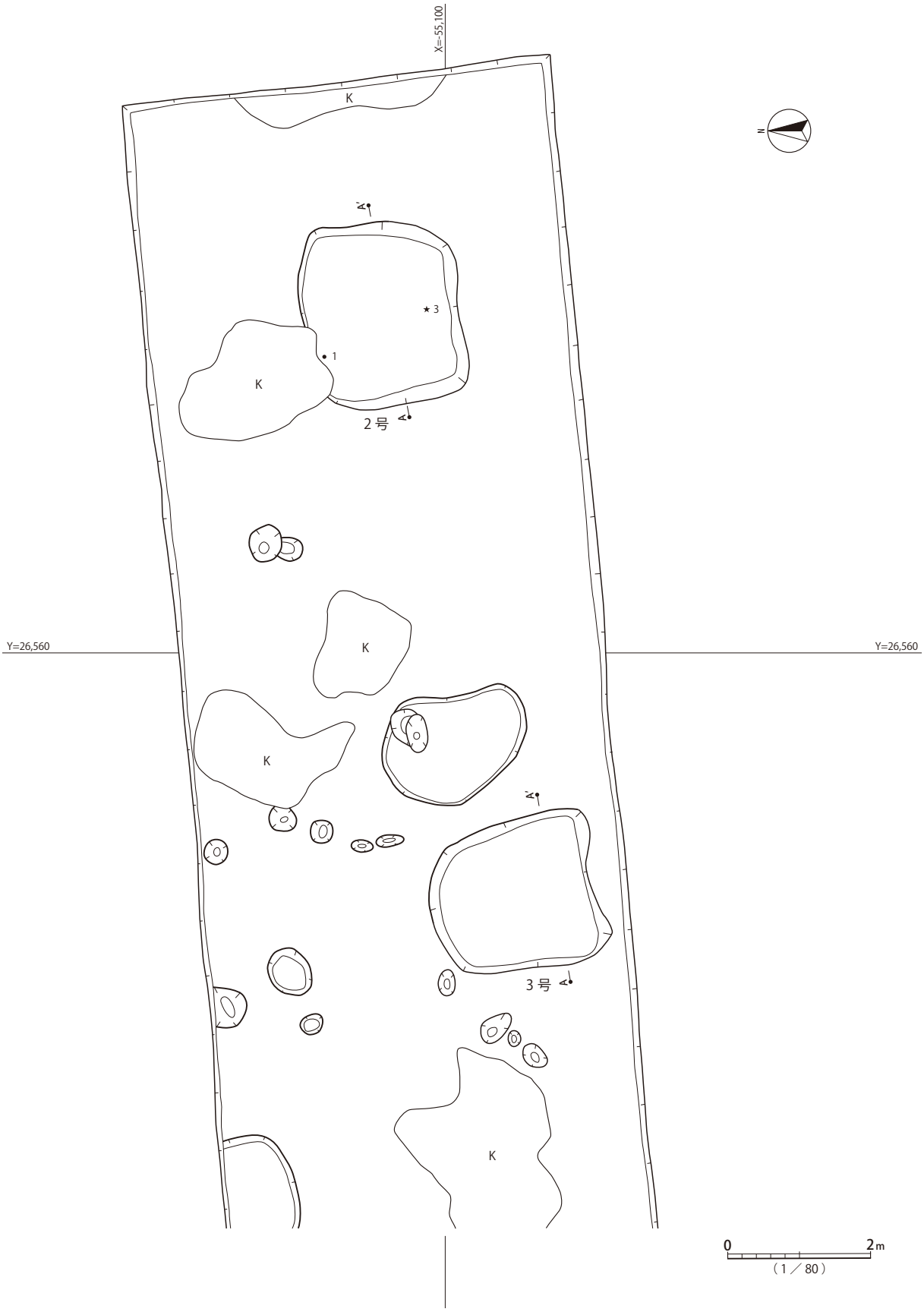
遺構外出土遺物としては、ロクロ土師器杯1・2や、カワラケの可能性も否定できないロクロ土師器杯3及び、ロクロ土師器の高台付杯である4等が出土している。

また、狭端面を持ち、凹面に布目痕、凸面に縄タタキ目痕を有する平瓦5や、被熱があり、凹面の布目痕が僅かに残る平瓦片6も出土している。周辺に位置する上総国分僧・尼寺跡等から持ち込まれた可能性が高いと考えられる。

他には「寛永通宝」と考えられる銭7が出土している。

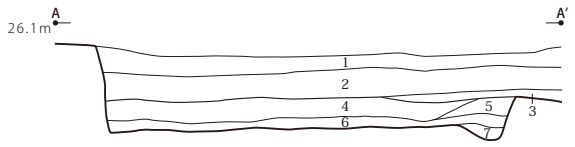

N
3号
K
Y=26,550
Y=26,550
B'
2
3
4号
1
4
5
1号
1
A'
A
B
X=-55,100
凡例
土器
石器
瓦
金属器
0
2m
（1／80）

第5図　遺構平面図(1)



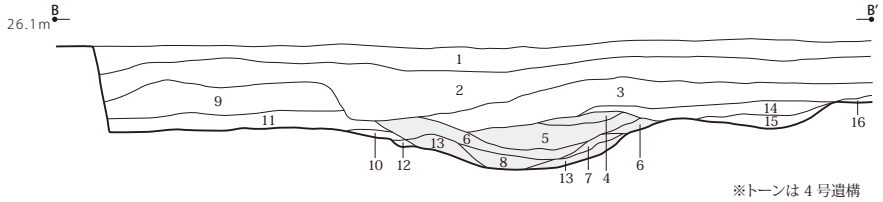
第6図　遺構平面図(2)

1 号遺構



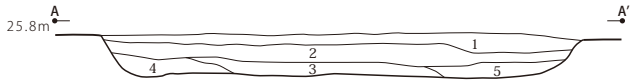
1 現表土
2 暗灰褐色土　ロームブロック(5mm ～ 3cm 大・均等)
3 暗黒色土　白色粘土粒(1 ～ 5mm 大・少量)
4 暗黒色土　ロームブロック(5mm ～ 1cm 大・微量)、炭化粒(5mm 大・きわめて微量)、白色粘土粒(5mm 大・きわめて微量)
5 暗黒褐色土(黒色味強い)　白色粘土粒(5 ～ 8mm 大・少量だが均等)
6 暗黒色土(4 より褐色味がかる)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
7 暗黒褐色土(少量)　ロームブロック(5mm ～ 1cm 大・多量)　しまりややゆるい

1・4 号遺構



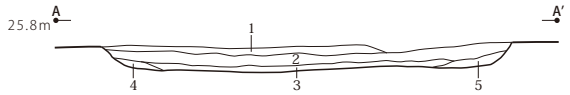
1 現表土
2 暗灰褐色土　ロームブロック(5mm ～ 3cm 大・均等)
3 暗黒褐色土(褐色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量)、焼土粒(5mm 大・きわめて微量)
4 暗黒褐色土(3 より黒色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
5 暗黒褐色土(3 より黒色味強い)　ローム粒(1 ～ 3mm 大・微量)
6 暗黒褐色土(5 より褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)
7 暗褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
8 暗褐色土(7 より褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
9 暗黒色土　ロームブロック(5mm ～ 1cm 大・微量)、炭化粒(5mm 大・きわめて微量)、白色粘土粒(5mm 大・きわめて微量)
10 暗黒褐色土(11 より褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)
11 暗黒色土(9 より褐色味がかる)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
12 暗黒褐色土(少量)　ロームブロック(5mm ～ 1cm 大・多量)　しまりややゆるい
13 暗褐色土(7 より褐色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・均等)
14 暗黒褐色土(3 よりやや黒色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 1cm 大・少量だが均等)
15 暗黒褐色土(少量)　ロームブロック(5mm ～ 3cm 大・多量)
16 褐色土　ハードローム漸移層　地山

2 号遺構

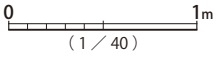


1 暗黒褐色土　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量だが均等)、焼土粒(1 ～ 5mm 大・少量)　きわめてよくしまる
2 暗黒褐色土(1 より黒色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 4cm 大・均等)、焼土ブロック(5mm ～ 2cm 大・少量)、炭化粒(1 ～ 5mm 大・微量)　よくしまる
3 暗黒褐色土(2 より黒色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量だが均等)、焼土ブロック(5mm ～ 1cm 大・少量)、炭化粒(1 ～ 5mm 大・微量)　よくしまる
4 暗黒褐色土(3 より黒色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量)、焼土ブロック(5mm ～ 1cm 大・微量)、炭化粒(1 ～ 5mm 大・微量)　しまる
5 暗黒褐色土(3 より黒色味強く 4 より黒色味弱い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量だが均等)、焼土ブロック(5mm ～ 1cm 大・少量)、炭化粒(1 ～ 3mm 大・微量)　しまる

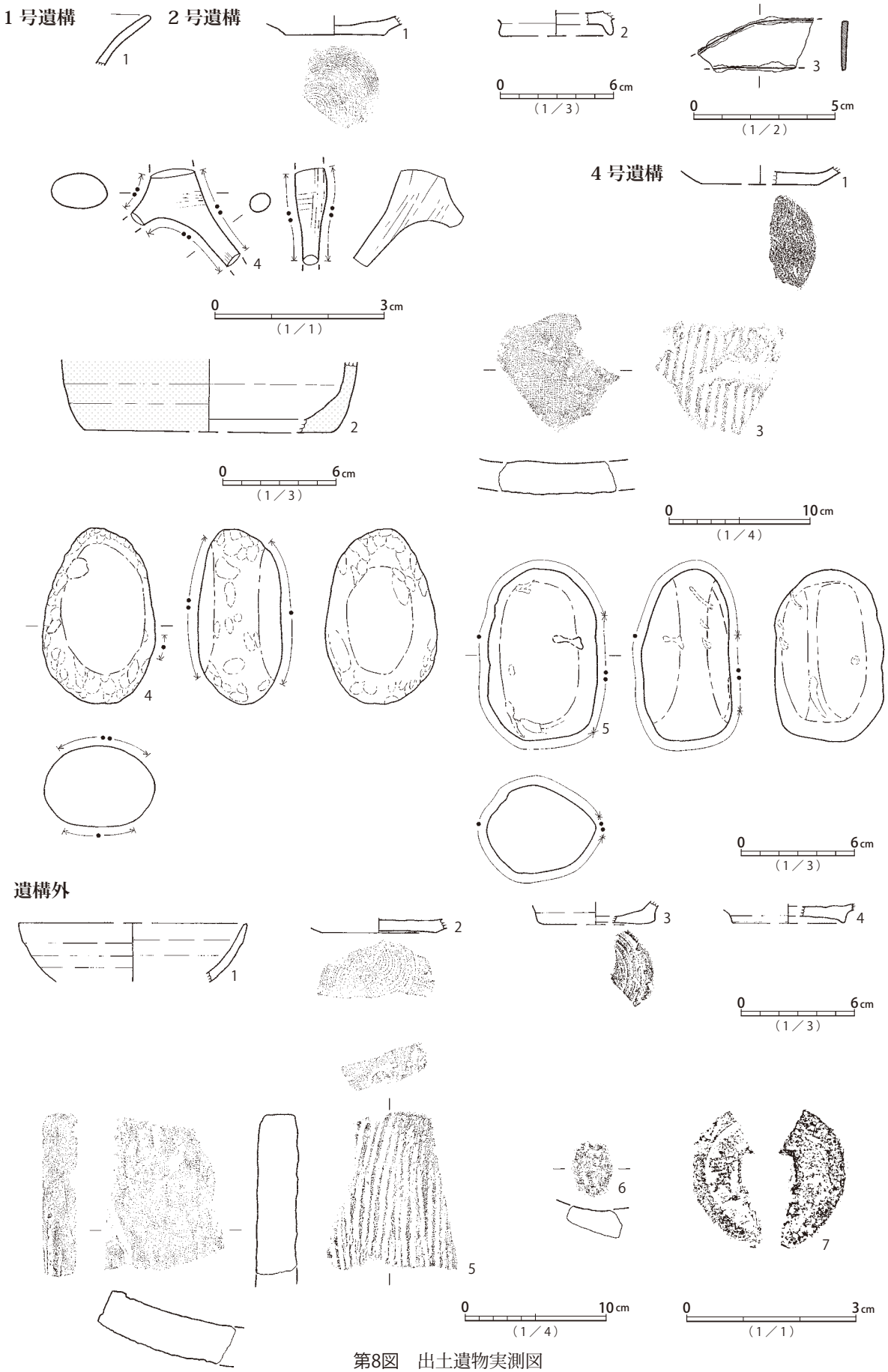
3 号遺構



1 暗黒褐色土(やや褐色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・均等)、炭化粒(5mm 大・微量)　よくしまる
2 暗黒褐色土　ロームブロック(3mm ～ 3cm 大・少量だが均等)、炭化粒(3 ～ 5mm 大・微量)、焼土粒(1 ～ 5mm 大・きわめて微量)　よくしまる
3 暗黒褐色土(2 より黒色味強い)　ロームブロック(5mm ～ 2cm 大・少量)　よくしまる
4 暗褐色土(黒色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
5 暗褐色土(やや黒灰色味がかる)　ロームブロック(5mm ～ 5cm 大・少量)



第7図　遺構断面図



第8図　出土遺物実測図

第３章　まとめ

稲荷台遺跡は、これまでに17か所に及ぶ地点を調査している。

当調査区の北は小支谷が西側から入り込んでおり、弥生時代後期や奈良・平安時代の竪穴建物跡等が展開していたL地点に隣接する地点であったが、かつて行われた駐車場造成に伴う撹乱が著しく、検出された遺構は少数であった。

しかしながら、ビニール片等が混在する駐車場造成土に、図示できない土器の細粒片が均等に混入しており、当初は、ある程度の遺構が存在していたと考えられる。

僅かに残存した遺構については、奈良・平安期の竪穴建物跡と溝状遺構が主体であり、他には中世まで下る可能性がある方形土坑の下底面が残存する程度であった。

方形土坑の可能性がある掘り込みからは、中世前半期と考えられるカワラケの破片が出土している。J地点で検出された古代道は、中世期に改変を受けていることがわかっており、北東1.2kmに位置する13～14世紀の守護所または、国衙遺構とも推定されている能満城跡（能満遺跡群）馬場ノ内館跡の存在と合わせ、今回の調査地点で中世期の可能性がある遺構が検出されたことは、一つの成果と考えられる。

一方、掘立柱建物跡の柱穴等は検出されなかった。このことは、多くの遺構が撹乱により消失したものの、遺構の状況は隣接するL地点と基本的に同様であることを意味する。

四面廂を持つ掘立柱建物跡を始めとする掘立柱建物跡群や、多量の緑釉陶器が出土した官衙関連建物跡の可能性も持つ、稲荷台遺跡の中核的遺構であるE地区とは明らかに異なり、E地区の遺構群を維持管理する成員の居住域であった可能性が考えられる。

今後、小規模であっても周囲の調査事例が蓄積されていけば、稲荷台遺跡E地区や、J地点で検出された、国道297号線に並走する古代道路跡を中心とした稲荷台遺跡全体の位置付けが少しづつ明らかになっていくものと考えられる。

引用参考文献

浅利幸一 他2003『市原市稲荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅸ　財団法人市原市文化財センター
小川浩一2014「稲荷台遺跡L2・L3地点」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一2020「稲荷台遺跡O地点」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
木對和紀2017『市原市稲荷台遺跡L8地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第38集　市原市教育委員会
近藤　敏2006「能満城跡遺跡」『市原市文化財センター年報平成17年度』財団法人市原市文化財センター
近藤　敏2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田中清美2015『市原市稲荷台遺跡L1・L4地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第33集　市原市教育委員会
牧野光隆2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

出土遺物観察表

第 2 表　出土土器観察表

挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物番号	器種	遺存度	注記番号	法量（推定）cm 口径	底径	器高	色調（外）	色調（内）	焼成	胎土	特徴（外面）	特徴（内面）	備考
8	2	1	1	土師器　甕	口縁部　1/10 未満	007－2	－	－	－	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	密。黒色粒（0.1 ～ 0.2mm 大・少量だが均等）	ヨコナデ	ヨコナデ	
8	2	2	1	カワラケ　小皿	体部下端～底部　1/3	006－4	－	（5.2）	－	7.5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	良好	やや粗。灰色粒（0.1 ～ 0.2mm 大・少量だが均等）、赤褐色粒（0.4mm 大・微量）	ロクロ調整。底部、回転糸切り	ロクロ調整。底部、見込み部、ナデか	中世前半期（13C か）
8	2	2	2	土師器　高台付杯	底部　1/8	14 トレ－2	－	（6.0）	－	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	密。白色粒（0.1 ～ 0.2mm 大・少量だが均等）	ロクロ調整	ロクロ調整	
8	2	4	1	土師器　杯	底部　1/3	008－10	－	（6.0）	－	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	やや不良	密。白色粒（0.1 ～ 0.2mm 大・少量だが均等）	ロクロ調整。底部、静止ヘラ切り	ロクロ調整	
8	2	4	2	灰釉陶器　瓶	胴部下半～底部　1/8	008－2	－	（13.0）	－	5Y6/2 灰オリーブ	5Y7/1 灰白	良好	密。黒色粒（0.3 ～ 0.5mm 大・少量だが均等）	ロクロ調整	ロクロ調整	外面、全面施釉
8	2	遺構外	1	土師器　杯	口縁～体部中位　1/8	003－2	（12.0）	－	－	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	良好	密。黒灰色粒（0.3 ～ 0.4mm 大・少量だが均等）、海面骨針状白色粒（0.4mm 大・微量）	ロクロ調整	ロクロ調整	
8	2	遺構外	2	土師器　杯	底部　3/7	010－1	－	（6.0）	－	5YR7/8 橙	7.5YR7/8 黄橙	良好	密。黒灰色粒（0.1 ～ 0.2mm 大・微量）	ロクロ調整。底部、回転糸切り後、無調整	ロクロ調整	胎土、比較的均質な土
8	2	遺構外	3	土師器　杯	底部　1/6	003－5	－	（6.2）	－	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	良好	密。黒灰色粒（0.2 ～ 0.3mm 大・少量だが均等）	ロクロ調整。底部、回転糸切り後、無調整	ロクロ調整	胎土、均質な土
8	2	遺構外	4	土師器　高台付杯	底部　1/6	001－2	－	（6.0）	－	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	良好	密。黒灰色粒（0.2 ～ 0.3mm 大・少量だが均等）、海面骨針状白色粒（0.3mm 大・微量）	ロクロ調整	ロクロ調整	

第 3 表　出土石器観察表

挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物番号	器種	注記番号	法量 cm・g 長さ	幅	厚さ	重量	色調	備考
8	2	2	4	又状石製品	006－1	1.7	1.4	0.6	1.0	2.5Y8/2 灰白	溶結凝灰岩。丁寧に研磨されている。一部、擦痕あり
8	2	4	4	磨石	008－9	9.2	5.9	4.3	337.5	10YR7/1 灰白	砂岩。表・裏面の摩耗痕著しい。側縁部は、敲打痕あり
8	2	4	5	磨石	008－12	9.0	5.7	4.7	344.3	10YR5/3 にぶい黄褐	砂岩。全面、摩耗痕あり。一部、摩耗著しい

第 4 表　出土瓦観察表

挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物番号	種別	出土位置	注記番号	法量（推定）cm・g 長さ	幅	厚さ	重量	色調（凹面）	色調（凸面）	焼成	胎土	特徴（凹面）	特徴（凸面）	備考
8	2	4	3	平瓦	覆土	008－3	（8.7）	（8.2）	（8.2）	213.5	10YR7/2 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	良好	密。赤褐色粒（0.5 ～ 0.8mm 大・均等）	布目痕	縄タタキ目痕	
8	2	遺構外	5	平瓦	覆土	試掘－1 一括	（11.3）	（9.2）	（2.9）	396.0	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	良好	密。黒灰色粒（0.2 ～ 0.5mm 大・少量）、赤褐色粒（0.5 ～ 0.7mm 大・微量）	布目痕	縄タタキ目痕	狭端面、ヘラナデ。左側縁部、ヘラケズリ、ヘラナデ
8	2	遺構外	6	平瓦	覆土	005－1	（4.3）	（3.9）	（1.5）	24.2	2.5YR6/6 橙	10YR6/2 灰黄褐	良好	やや粗。白色粒（0.2mm 大・微量）、赤褐色粒（0.2 ～ 0.5mm 大・少量）	布目痕、僅かに残る	全て欠	被熱している

第 5 表　出土金属器観察表

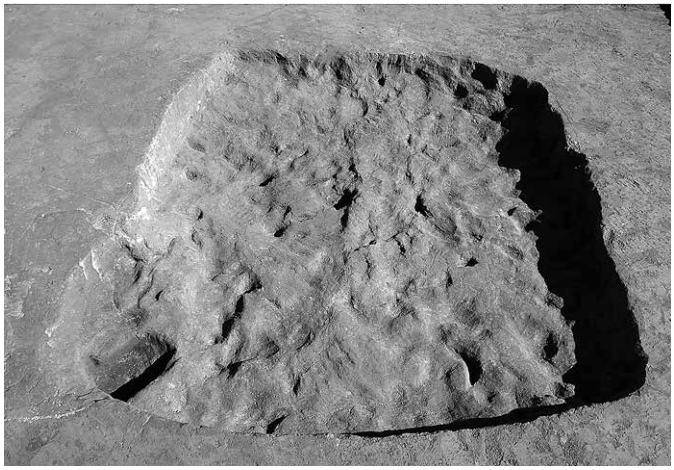
挿図番号	図版番号	遺構番号	遺物番号	種別	出土位置	注記番号	法量 cm・g 長さ	幅	厚さ	重量	備考
8	2	2	3	板状鉄製品	覆土	006－3	4.22	1.70	0.20	7.5	鎌の可能性あり
8	2	遺構外	7	銭	覆土	13 トレ－2	2.42	1.08	0.12	1.0	「寛永通宝」か。被熱し、歪んでいる

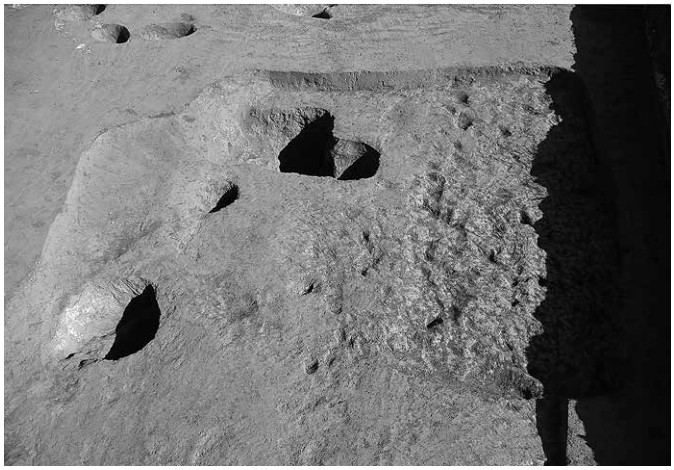
調査前状況（東から）

作業状況（南東から）

1 号遺構遺物出土状況（北から）

1 号遺構（北東から）


2 号遺構（西から）


3 号遺構（西から）

4 号遺構遺物出土状況（北から）

4 号遺構（北から）

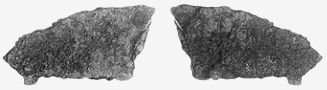
1号遺構

1

2号遺構

1

2


3

4

4号遺構

1

2

3

4

5

遺構外

1

2

3

4

5

6

7

報　告　書　抄　録

ふりがな	いちはらしいなりだいいせきおーちてん
書　名	市原市稲荷台遺跡Ｏ地点
副書名	
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第 51 集
編著者名	小川浩一
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒 290-0011　千葉県市原市能満 1489 番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2020 年（令和２年）11 月 20 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
いなりだいいせきおーちてん 稲荷台遺跡Ｏ地点	いちはらしやまだばし 市原市山田橋３丁目 11 番地 11	12219	792	35° 30′ 22″	140° 07′ 22″	20191111 ～ 20191125	162 ㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
稲荷台遺跡Ｏ地点	包蔵地	奈良 平安 中世	竪穴建物跡１棟 溝状遺構１条 方形土坑２基	奈良・平安時代土師器 灰釉陶器 瓦 カワラケ	調査区北西部において、奈良・平安時代の竪穴建物跡を検出した。

要　約

稲荷台遺跡Ｏ地点は、東京湾を西に望む標高 26m 程度の台地上に位置する。
調査の結果、奈良・平安時代を中心とする竪穴建物跡や、平安時代に帰属すると考えられる溝状遺構を検出した。溝状遺構において、灰釉陶器の胴部片が出土している。
また、中世前半期の可能性がある方形土坑の下底部も検出した。
今回の調査区において、奈良・平安時代の掘立柱建物跡は検出されず、南に展開する掘立柱建物跡群を維持管理する成員の居住域であった可能性が考えられる。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第51集

市原市稲荷台遺跡Ｏ地点

令和２年 11 月 16 日　印刷
令和２年 11 月 20 日　発行

編　　集　　市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　　行　　株式会社ライフ
市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1−1−1
TEL 0436（22）1111

印　　刷　　株式会社弘文社
千葉県市川市市川南２−７−２
TEL 047（324）5977